様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５０５６６

研究課題名（和文）英国人プラントハンターの探査と商業主義の相克ー植物をめぐる文化交渉学の構築ー

研究課題名（英文）Conflict between British plant hunters' expeditions and commercialism in the British Empire: Building the cultural interaction studies in search of rare plants

研究代表者
野間　晴雄（NOMA, HARUO）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：００１３１６０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,700,000円、（間接経費）　810,000円

研究成果の概要（和文）：　イギリスのプラントハンター（プラントコレクター）といわれる人々は，植物学，園芸学の知識と実践を背景に，世界各地に拡大した植民地で稀少な植物・有用植物を収集し，それをイギリス本国や別の植民地に普及するのに重要な貢献をした。その中核となったのがキュー植物園で，J.バンクス卿やW.フッカーの努力によって収集・研究がすすめられるとともに，風景式庭園に対して栽植植物の多様化からの寄与も大きかった。
　南アフリカ，インド，中国，オセアニア等での植物採集に関わったプラントハンターたちは18世紀以降の大英帝国拡大の一翼を担い，本国・植民地の経済植物や温帯植物の普及によって大きな経済的利益をもたらした。

研究成果の概要（英文）：Plant hunters/collectors in Britain, who owned various kinds of botanical and horticultural knowledge, had played an important role in diffusing rare or useful plants/crops into Britain and her colonies. The core centers were the Kew Gardens in suburban London and botanic gardens in British colonies such as Calcutta. Sir J. Banks and W. Hooker, both of them were noble men, contributed much to collect and research these plants as well as establishing landscape gardens in Britain.
Plant hunters engaged in collecting rare or useful temperate and/or tropical plants in South Africa, India, China and Oceania had played a significant part in expanding the British Empire after the 18th century. Additionally they brought great economic profit to both Britain and her colonies.

研究分野：人文分野

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史，科学社会学・科学技術史

キーワード：プラントハンター　園芸学　イギリス　植民地　植物園　インド　南アフリカ　ニュージーランド

１．研究開始当初の背景

関西大学のグローバル COE プログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成―周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出―」（2007 年～2011 年度）において，研究代表者は，東アジア，とりわけ中国と日本で稀少な植物がどのようにしてヨーロッパへ移入・移植されたかの歴史的プロセスを，キクやユリを事例に考察した。その過程で，16 世紀以降，チャやサトウキビなど非ヨーロッパ産の熱帯性有用植物・作物や，イギリスにない珍奇な温帯の園芸植物の他地域への普及に，プラントハンター（プラントコレクター）といわれる一群の人々が関わってきたことがわかってきた。

とりわけイギリスは，18 世紀以降の大英帝国の軍事的・商業的拡大に伴って，その動きが顕著にみられた。しかも，本国では市民の独自の庭園文化の形成に温帯の園芸植物の普及が果たした役割が大きかったことは特筆される。それらの動きを，プラントハンターの個別事績や行動を分析して，イギリス本国とその植民地の双方から，比較文化史や科学社会学の手法も加味しながら研究しようとする気運が生まれてきた。

２．研究の目的

18 世紀以降，イギリスは，アジアや新大陸の温帯や中国・ヒマラヤの高山帯で，自国の植民地とした地域や進出を企てていた地域において，希少で花が美しい植物を，自国の庭園や花壇に移植して鑑賞することが王侯貴族や上流階級の間で流行し，それが一般市民にも普及していった。その現地で植物探査・採集と輸送を担ったのがプラントハンター（プラントコレクター）といわれる人たちである。彼らは園芸・植物知識には秀でるが，出自的には中の下層の人々が多く，植物探査で一攫千金をねらうことに情熱を注いだ。このほか，パトロンである注文者の意向に沿って，熱帯の有用植物や作物の植民地間の移植にも大きな役割を果たした。

いずれも，これらの植物は高価で量はかさばらないが，移植地では大きな経済的・文化的な変化をもたらしたことが共通する。

本研究は 18～20 世紀前半におけるイギリスのプラントハンターたちの活動を，次の４点から明らかにして，東西文化交渉研究の新たな地平をめざすことを目的とする。

(1)プラントハンター自身の行動・事績と，その成果・情報が集積された植物園の歴史的役割の検討

(2)植物収集でプラントハンターと関係を持った園芸家，外交官，植物/博物学者・アマチュア研究者の人的ネットワークを，海外や日本国内での史料調査と，彼らの生家，現地園芸会社，雑誌類の調査の分析から明らかにする。

(3)植民地に移植された有用植物の普及過程の検討。

(4)イギリス本国での温帯観賞用植物の普及と新たな庭園文化形成に関する文化史的考察。

具体的には，イギリスの庭園や本国・植民地の植物園に，大英帝国の植民地からどのような植物が入ったかを，温帯（ニュージーランド，日本，南アフリカ），熱帯・亜熱帯（南アジア，中国）を比較対照して考える。対象とする地域は，イギリス，南アフリカ（ケープ植民地），ニュージーランド，南アジア（インド・バングラデシュ・セイロン等）と日本である。さらにその移送や流通に関わった海運貿易国家オランダの役割にも注目する。

３．研究の方法

(1)イギリスのプラントハンターと，その移植に大きな役割を果たした植物園のデータベースづくりを基本的な作業として行った。

(2)研究分担者と協力者は，イギリスとその旧植民地での現地資料・史料調査の探索と踏査，聴き取りを中心に分担課題をすすめていった。

(3)各人の分担は以下である。関西大学で研究会を 3 回開催して相互理解を深めるとともに，各人の研究課題の史料調査を進めた。以下が中心となる研究者の調査内容の概要である。

①野間　晴雄：英国人プラントハンターのデータベース作成と海外植物園等の調査，個別プラントハンターの系譜調査，インド・イギリス・オランダでの調査

②北川　勝彦：南アフリカ共和国でのプラントハンティングの実態と F.マッソン，J.ボーウィーらのプラントハンターらの史料による分析

③朝治　啓三：イギリスのプラントハンター派遣の核となったＪ.バンクスについて，イギリス国内にある原史料・雑誌などからの行動の分析

④川島　昭夫：イギリス庭園史における外来植物導入の系譜とその意義の調査

⑤小椋　純一：イギリスに移入されたニュージーランド産植物の調査

これに加えて，橘 セツはイギリス庭園史からのアプローチ，グルン・ロシャンは中国からインドへのチャ樹の導入について，R.フォーチャンの事績で協力を仰いだ。

(4)平成 25 年度中のそれぞれの分担課題を中心とした論考を集積し，研究代表者による総説や展望を付した学術専門書の刊行を平成 26 年度中にめざしたい。

４．研究成果

(1)世界の植物園の系譜や主要なイギリスのプラントハンターのデータベースを作成した。カリブ海のバルバドスでの植物園，カルカッタの植物園などは，植民地植物園の中核として重要な役割を果たした。

(2)Ｊ.バンクスのもとで，南アフリカのケ

ープ植民地・ナタール植民地へ派遣されたF.マッソン，J.ボーウィー，R.プラントらは，19 世紀のイギリス帝国およびアフリカの植民地の建設に大きくかかわるとともに，植民地における植物園の設立と帝国の植民地経済の運営にも関連性があることが判明した。

(3)ロンドンのキュー植物園の役割は王室の個人的庭園から世界の稀少植物・有用植物の収集・改良・種の保存とともに，勃興する市民の健康的なリクリエーションのため，イベント性をもった大温室などでの非温帯植物の展示へと性格を変えていった。その役割を果たしのが，W．フッカーである。

(4)イギリスにもプラントハンターによってもたらされた稀少で美しい温帯植物を用いたイギリス風景式庭園の設計に，ブランウンの業績がよくとりあげられる。しかしそれに先立つ新古典主義と呼ばれる設計理念を打ち立てた点でロバート・アダムの，整形式庭園から風景式庭園への移行期の意義はもっと評価すべきある。

(5)J.バンクスの世界の植物収集に果たしたパトロン的役割や人的ネットワークを，イギリスの園芸雑誌やバンクスの著書などの分析から新たな知見が得られた。

(6)18 世紀のイギリスの育種家J.リーなどの系譜と，エジンバラ植物園の園長であったJ.ホープの来歴・事績を，現地調査によって明らかにした。

(7)インドアッサム・ダージリンにおける茶や種子を中国から持ち出した R.フォーチュンの行動とその中国山間部でのプラントハンティングの実態の一端が解明できた。

(8)ニュージーランド産植物，とりわけカウリとカウリ・ガムの検討から，その有用性と特質を明らかにした。

いずれも海外・現地での史料・資料調査をもとにした成果である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 27 件）

①野間　晴雄「王立キュー植物園の設立と拡大（前編）―大英帝国ネットワークの一翼―」，『関西大学東西学術研究所研紀要』，第 47 輯，2014 年，133-166 頁，査読無

②小椋　純一「植生景観の復元」，『歴史評論』，Vol.768，2014 年，46-51 頁，査読無

③ NOMA Haruo. “Japanese Geographers' Contribution to East and Southeast Asian Studies since the 1980s，Japanese Journal of Human Geography”[*Jinbun Chiri*]，Vol.65. No.3，1-16，2013，査読有

④橘　セツ「近代英国のガーデニングとモラル―ジョン・クローディアス・ラウドンとジェーン・ラウドン夫妻の思想と実践からの考察―」『神戸山手大学紀要』第 14 号，2012 年，151-166 頁，査読無

⑤北川　勝彦「南アフリカの図書館―ローズ大学コーリ図書館を中心に―」，『図書館フォーラム』（関西大学），2012 年，第 17 号，3―7 頁，査読無

⑥星　珠枝・橘　セツ「園芸家半田たきの明治後期の英国留学―家族史とライフヒストリー／ライフジオグラフィーの視点から―」，『神戸山手大学紀要』第 13 号，2011 年，79-111 頁，査読無

⑦野間　晴雄，グルン・ロシャン「インドにおける中国茶・アッサム自生茶の移植・栽培の相克についての考察」，『関西大學文學論集』，第 61 巻，第 1 号，2011 年，65-92 頁，査読無

〔学会発表〕（計 34 件）

①北川　勝彦「18 世紀～19 世紀における南アフリカのプラントハンター」，アフリカ史研究会，2013.07.27，関西大学

②北川　勝彦「18 世紀～19 世紀における南アフリカのプラントハンター―Francis Masson，James Bowie および Robert Plant について―」第 3 回プラントハンター研究会，2013.06.17，関西大学

③小椋　純一「ニュージーランド北島のカウリ（Kauri）とカウリ・ガム（KauriGum）について」第 3 回プラントハンター研究会，2013.06.17，関西大学

④野間　晴雄「インドのティー文化と茶樹移植」第 3 回プラントハンター研究会，2013.06.17，関西大学

⑤朝治　啓三「イングランド庭園史上の新古典主義」第 3 回プラントハンター研究会，2013.06.17，関西大学

⑥橘　セツ「プラントハンターと庭園のトランスカルチャレーション：19 世紀後半から 20 世紀前半における日本と英国の交流をめぐって」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑦グルン・ロシャン「ロバート・フォーチュンと茶」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑧川島　昭夫「イギリスに茶の樹はいつ入ったか」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑨朝治　啓三「ジョセフ・バンクスと帝国」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑩野間　晴雄「近代植物園の系譜学―帝国とネットワーク―」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑪北川　勝彦「19 世紀中葉南アフリカのプラントハンター」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

⑫小椋　純一「ニュージーランドの植生の現状について」第 2 回プラントハンター研究会，2012.01.07，関西大学六甲山荘

〔図書〕（計 9　件）

①朝治　啓三編『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』第 1 巻，関西大学大阪都市遺産研究センター，2013 年，287 頁

②朝治　啓三編『住友文庫ドイツ医学学位論

文目録』第２巻，関西大学大阪都市遺産研究センター，2013 年，300 頁
③小椋　純一『森と草原の歴史』古今書院，2012 年，360 頁
④北川　勝彦・草光俊雄『アフリカ世界の歴史と文化―ヨーロッパ世界との関わり―』，放送大学教育振興会，2012 年，277 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

野間　晴雄（NOMA，HARUO）
関西大学・文学部・教授
研究者番号：00131607

(2)研究分担者

朝治　啓三（ASAJI，KEIZO）
関西大学・文学部・教授
研究者番号：70151024

北川　勝彦（KITAGAWA，KATSUHIKO）
関西大学・経済学部・教授
研究者番号：50132329

(3)研究協力者

小椋　純一（OGURA，JUNICHI）
京都精華大学 人文学部・教授

川島　昭夫（KAWASIMA，AKIO）
京都大学大学院人間・環境学研究科・教授

橘　セツ（TACHIBANA，SETSU）
神戸山手大学・現代社会学部・教授

グルン　ロシャン（GRUNG，ROSHAN）
東京福祉大学・大学院・入学課職員